組合會議九州地方協議會　伊藤卯四郎

労働組合の職能を省ると日本は非常時であるから組合は既に試験の状態にあると種々批判されてゐる。我が健實なる組合に對し設假退却したと言ふのは組合の根本を解せぬ者である。労働組合は爭議鬪爭を繰り返す事が目的ではない、それは取扱の手段であつて根本の目的は労働階級の福利を増進する事であつて内に自ら福利共濟事業を起しその部署を守つて産業を發展せしめ公平なる利益の分配を得ることである。

健實なる組合は内部的には陣營の組織と力を充實し外には合同統一に進んでゐる、過去一ケ年に日本の労働組合として行くべき方針を作り其の運動も漸次緒について來たと思ふ、何等設假退却はしてゐない數に於いては増加しつつ

財團法人 協調會福岡出張所

ある内部充實は外に向つての相當な用意と準備が充實してゐる、而して眞の國情に國民性に即した運動をもつて大道を進む樣になつたと信ずる。十一年度は太陽を迎へて進むが如き信念と確信がついた。

日鐵が今後の運動に考ふ可きことは八幡を中心とする日鐵の經營方針である。民間會社はブロックを作り日鐵に喰込みつつあるがこれがどう影響するか充分檢討せねばならぬ合同反對當時、時の當局、商相は全國の製鐵事業を纏め政府が監督命令するのであるから自由競爭は許さぬと明言したにも不拘今日はどうかこの精神は根本から覆へされた、資本主義的な自由製鐵産業は目下生産過剩を來してゐる、何年後かに來る反動の不況にはどうなるか。民間會社は日鐵と爭つてゐる、不景氣になると資本側で縮

財團法人 協調會福岡出張所